

小方ミニバス (男子)
県大会優勝 全国大会へ



2月20日、佐伯区スポーツセンターで行われた「第46回広島県ミニバスケットボール大会」で、小方ミニバスケットボールクラブ(男子)が、見事優勝を果たし、3月30~31日に東京で行われる全国大会へと駒を進めました。市内の男子チームとして初の快挙。

ヘッドコーチの竹田明男さんは、「ほかのチームと比べて体格は小柄だが、スピードがある。相手にしつこくプレッシャーをかけ、守りを頑張った。キャプテンの金澤遼哉くんは、声をよく出してみんなを引っ張ってくれた」と勝因を分析。全国での健闘が期待されます。



県広報コンクール
最優秀賞(組み写真の部)



令和2年度広島県広報コンクールの「組み写真の部」で、昨年の11月号の広報紙に掲載した「おおたけ水産GOGO市」の写真が最優秀賞を受賞しました。写真での最優秀賞受賞は、昨年度に続き2回目です。

審査員からは「行ってみようという気にさせる」「ストーリーが見える表現」などの講評がありました。(詳しい講評は県ホームページに掲載)

取材に協力していただいた皆さん、ありがとうございました。



13 証書
14 下は笑顔です。15 16 証書

3/11 THU

努力は君たちを裏切らない

大竹中学校

新型コロナウイルスの影響で、通常とは異なった中学校最後の年。休校となったり、多くの行事が中止や規模縮小となったりと、十分な学校生活を送ることができた1年とは言えないかもしれません。この日、市内3つの中学校で無事卒業式が執り行われ、大竹中学校では、在校生は代表1人の出席ながらも、92人が学びやを巣立って行きました。

卒業証書を授与し終えた十亀校長は「自分の可能性を信じよう」「努力は君たちを裏切らない」と心強い言葉を贈りました。

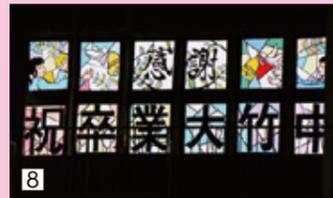
在校生代表の高山ひなたさんは、「大竹中の柱のような存在でした」と卒業生との数々の思い出を振り返ります。卒業生代表の岩本朔弥くんは、コロナ禍で実施が危ぶまれながらも、大竹中伝統のソーラン節を踊ることができた喜びを「魂を込めて演技できたことは一生の思い出」と、先生や下級生、保護者らへの感謝の言葉を交えて述べました。

卒業式後の校門付近では、友達同士で記念撮影。いつまでも名残り惜しそうな光景でした。

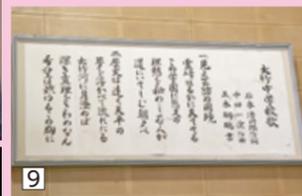
17 お母さん、成長を喜びます！



1 一人一人に言葉をかけ、卒業証書を手渡します。2 保護者が見守る中、壇上へ。3 卒業生が入場してくると、一斉にカメラを向けます。4 中野蒼大くんの指揮で合唱した初音ミクの「桜ノ雨」。



5 学びやを巣立つ。少年ジャンプ！ 6 送辞の高山ひなたさん。「1、2年生の思いを背負ってしっかり伝えたい」と意気込み。7 3年間を振り返り感謝の答辞。岩本朔弥くん。8 体育館の窓を彩るステンドグラス。



9 何度も歌った校歌。10 恩師などからの祝電が届いています。



11 満面の笑顔で自撮り。12 肩組む仲間。これからも友達だ！

